



## 〈世界〉 **辞書とは** 〈日本〉



4000年前  
メソポタミヤ  
アッカド人による  
シュメール語対照表



60万語  
O E D

言葉や物事、漢字などを集め、その品詞・意味・背景（語源等）・使用法（用例）・派生語・等を解説した書籍。

広くは様々な種類があるが、本単元では、外国語翻訳の時点から国語辞書までの系列を扱う。

古くは4000年前メソポタミヤの、シュメール語翻訳が石板として残っている。日本でも空海による1600年前の篆隸万象名義が残存している。いずれも外国語を翻訳する際に必要な書籍として成立した。

現在、最も多くの語彙を集めたものがO E D（オックスフォード英語辞書）である。これは記録されているすべての用例を扱うという方針で作成された。

日本でも日本国語大辞典が同じ方針で辞書編纂をしており50万語を登録している。

各国の辞書編纂のきっかけは、ほとんどが聖書の翻訳からになっている。スコラ学派による、各国の言葉への翻訳の際に、辞書が作成され、その経緯により各国の国語概念が形成されている。言うなれば近代国家の成立は、必ず辞書作りと並行して行われると言ってよい。

アルファベット順と五十音順

語彙の増加により、どの辞書も大きな方向転換を強いられる。もともとは、概念の分類別（哲学・自然科学・社会科学のように）に編成を行っていたものが、語彙量が増加すると、言葉の収集より検索利用が重視されるようになり、アルファベット順へ移行していく。分類重視から検索重視への転換が、近代化の大きな転換と言ってよいだろう。

アルファベット順であると26項目の分類であるが、日本のイロハ順に従うなら47項目となる。これに異議を立てたのが、本単元で取り上げる大槻文彦である。大槻は当時の学校教育を参考に50音順を採用し、第一行アカサタナハマヤラワの10項目から検索可能にした。

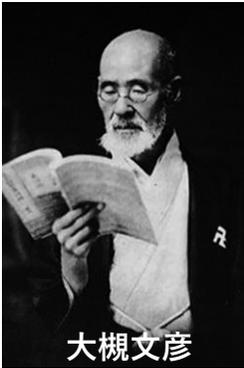
大槻は言海作成時、福沢諭吉に献本を行っているが、「寄席の下足札が五十音でいけますか」と批判されていることから、当時の感覚としていかに新しい取り組みであったかが分かる。



1600年前 篆隸万象名義



50万語  
日本国語大辞典



大槻文彦

辞書の役割、もう1つあります。

もともと辞書が広がったのが、キリスト教会の公用語ラテン語で書かれた聖書を翻訳するためです。

言葉は同じ国でも地域によってバラバラです。

翻訳する辞書を作ることで自然とその国の言葉が整理され、国語ができていきました。

辞書の役割、**言葉を整理して、国語を作りたい**

明治維新の文部省。近代国家を作るにあたり辞書が必要。

有力な学者たちに作らせましたが、失敗。

そこで、1人の青年に任せることにしました。大槻文彦です。

大槻文彦の心には2人の言葉がありました。

お爺さん「遂げずばやまじ」さいごまであきらめな

お父さん「お前の作った辞書を楽しみにしているよ」

文彦の作戦。当時アメリカのウェブスター英語辞書の輸入本がありました。

「英語辞書を全部翻訳して並べかえれば完成じゃないか。」

うまくいったでしょうか。（指名）

英語辞書を翻訳しようと思いますが、たとえば「あ」。

あいあい傘英語で何と言いますか。Aaron日本語で？お互いの言葉にないものが多いのです。

過去の字引を集めしらべましたが、明治維新、どんどん新しい言葉が増えてます。

これはなんですか。「どじょう」か、「どちょう」か、「どぜう」か。

これは名前なのか（名詞）。それとも別の言葉の働き（動詞・形容詞）によるものなのか。

「ど」の項目のどこに入れるのか。日本語の文法が整理されていなかったのです。

辞書にする以上嘘はかけません。どじょうとは何か。もともとの語源は何か。意味・由来が定まっていませんでした。

調べると、地方によってどづおとったりどろづおとったりするようです。どろづおはもともとは濁りが取れてどろつおとよんだはずです。すると昔の言葉に泥津魚という言葉がありました。これが語源です。

このような作業を一つ一つやっっていかなければなりません。

「言葉の海のただなかに船のかいをおき、どこをみるとも定まらずただその遠く広く深いことに呆然とし、自分の学びが浅いことを恥じて責めるのみだった。」

あきらめたと思いますか。

お爺さんの言葉を思い出しました。遂げずばやまじ。

文彦は日本文法を整理しました。

みなさんが学校で勉強する言葉のページの内容のほとんどは文彦が整理しました。

例えばいろはうたを五十音にしました。最初に関くページが少なくなり言葉調べが楽になります。

4年後息子の辞書ができることを楽しみにしていた父馨溟死去

10年後辞書作りに集中するため文部省をやめ、フリー学者になる。「内藤いよ」と結婚。辞書作りを陰で支える。辞書の基本原稿が完成。

12年後 辞書の修正が終わり、文部省に提出。音沙汰なし。（資金不足で出版できなかったそうです。）13年後文部省より自費なら出版しても良いと許可が下りる。私財をかき集め、友人たちから借金をし、予約を集めて出版が決まる。しかし、修正に時間がかかり、出版社の体制も整わず、なかなか出版できない。予約者たちから「大槻」ならぬ「大虚槻（おおうそつき）」と呼ばれる。

16年後 辞書作りを手伝ってくれた助手「中田邦之」脳溢血で死去かわいがっていた次女「えみ」結核で死去辞書作りを陰で支えた妻「いよ」腸チフスで死去。その時のことを次のように書いています。「続けて家族を失い、重なる悲しみに、この前後数日は、筆をとる力も出なかった。無理に原稿に向かうと、そこには、『ろめい（露命）』という言葉があった。」ろめい「露命」（名）「ツクノイノチ。ハカナキ命。」「思わず涙が流れた。」

そして17年後日本初の近代辞書は出来上がりました。辞書には言葉の海、言海と名付けられました。その数4000語。ほとんど1人で作り上げました。

実はここまでの授業の内容は、言海の巻末ことばのうみのおくがきにすべて書いてあります。文彦は言海を通して、辞書作りの夢や感動を、のちの国語学者に伝えました。

こうして生まれた国語辞書たち。合わせると1億部になります。

さて、大槻文彦は辞書作りについてどう思っているのでしょうか。良く思っている？後悔している？

言海の最後には一つの和歌が書かれています。

「敷島ややまと言葉の海にして拾いし玉はみがかれにけり」「大和言葉の大海から、拾い集めた宝石のような言葉たちは、さらにみがかれた。」

みなさんの持つ辞書は磨かれた宝石の集まりです。大事にしていましょ。

【参考図書】

向山洋一は“社会の授業”をどう作っているか。明治図書 向山洋一著

向山洋一年齢別実践記録集第19巻 向山の歴史授業の実践 東京教育技術研究所 向山洋一著

谷和樹著作集no1 向山型社会の全体像を探る 明治図書 谷和樹著

言海 ちくま学芸文庫 大槻文彦著

言葉の海へ 新潮文庫 高田宏著

辞書を編む 光文社新書 飯間浩明著

大英帝国の大事典づくり 講談社選書メチエ 本田毅彦著

知識の社会史 新曜社 ビーターバーグ著

世界大百科事典 平凡社

【本時展開】

明治期一人の青年がいました。名前を大槻文彦。

お父さんが漢学者。お爺さんが洋学者。文彦は漢学洋学両方のスペシャリストになりました。

文部省が当時抱えていた6つの問題。文彦はどれを任せられたのでしょうか。

正解は辞書作りです。辞書について考えていきます。

辞書は何年前からあるのでしょうか。

4000年前の石板。アッカド人が「シュメール語が知りたい」と作りました。

日本1200年前。空海。「漢の国の言葉を知りたい」と作りました。

なぜ作られたか。**知らない言葉を知りたい**

では、世界一の辞書はどこ国の辞書でしょうか。

イギリスオックスフォード英語辞典。全部で1冊です。60万語

日本、日本国語大辞典。50万語。敗けてないです。過去の用例が全部入っています。

なぜ作られたか。**たくさん言葉を知りたい。**

様々な辞書が、作られました。言葉の意味を語釈と言います。

すべて同じでしょうか。

「右」の語釈を書いてみましょう。

例えば広辞苑「南を向いた時、西にあたる方」正しい日本語を載せるイワコク「この辞典を開いて読む時、偶数ページののある側」

「動物園」の語釈。

広辞苑「各種の動物を集め飼育して一般の観覧に供する施設。」

シンカイ「公衆に生態を見せ、かたわら保護を加えるためと称し、捕らえてきた多くの鳥獣・魚虫などに対し、狭い空間での生活を余儀無くし、飼い殺しにする、人間中心の施設。」

なぜ違うのか。**自分の生活に役立つ言葉を知りたい。**